

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800683		
法人名	有限会社日本健康管理システム		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	〒655-0872 兵庫県神戸市塩屋町4丁目19-16 (電話) 078-752-0676		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年5月28日	評価確定日	2008年7月30日

【情報提供票より】(H20年5月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	H13年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10人, 非常勤 9人, 常勤換算	12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3 階建て	2 ~ 3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(5月6日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	2	要介護2	9		
要介護3	1	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村海浜病院
---------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

「安らぎと協調」の事業所理念に「地域密着」を加え、自治会や住民との関わりをいっそう重視する方向をとっている。利用者の年々のADL低下を気遣いつつ、日々の体調の小さな変化にも配慮がなされている。家族の意見や希望表明を活発にする仕掛けづくりの検討が望まれる。会社保養所を転用した施設であるので、間取りの改変には限界があるが、手すりや段差対策の工夫の検討も望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	事故報告書やヒヤリハット報告について検討し、利用者の事故予防、再発防止につなげられるケアの実践に取り組んでいる。地域との交流を意識して、近所の人々とかかわりをより多く持つようにしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価はユニットリーダーと職員で話し合い作成し、管理者がまとめた。管理者はリーダーが育ったことや運営推進会議への努力成果を実感した。職員は個々の利用者のADLの低下で、個別対応の大切さを再認識した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	2ヶ月に一回開催する会議で家族や地域代表から意見や質問も出るようになった。ホームの退所理由や認知症についての知識等の話し合いを通してグループホームへの理解と協力が進んできた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族からの意見、苦情等は少ない。事業所では何らかの苦情があるのではと気にしているが、家族会等家族同士で意見交換できる場作りや、家族の代表または個人と事業所が話し合う仕組みづくりが望まれる。「外出の機会」についてのテーマで話し合ってみたらどうか。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会に加入し、地域の清掃活動、年中行事等に参加している。利用者と共にゴミ当番や回覧まわしも行っている。ボランティアや婦人会員もホームを来訪し、話し相手や歌、手工芸を一緒に楽しんでもらっている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・H20年3月に運営方針を地域密着に変更し、以前の「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」に「地域との関わりを大切にします」を理念に加えた。職員は「地域の中のグループホーム」を意識するようになった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は掲示され、申し送り時等常に確認している。利用者への声かけや共に行うときも理念を活かすよう意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入している。地域の清掃活動やお祭りの参加、ボランティアや婦人会の訪問もある。季節の花や本の寄贈もあって、地域との支えあいができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価はユニットリーダーが中心に職員で話し合い作成し、管理者がまとめた。評価を通して、リーダーが育ったことや運営推進会議がうまく進むようになったことに気付いた。努力したことの成果がみえた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1回開催。参加者は家族、地域住民、有識者、地域包括支援センター職員。話し合いをとおして、地域の人のグループホームへの理解が深まっている。今回の外部評価も報告している。参加しやすいようホームの行事の後開催している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・生活保護受給の利用者について連携をとっているが、市や区との情報の共有はしていない。</p>		<p>・事業所の現状を理解してもらい、協力依頼や相談が気軽にできる関係を作り望みたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は電話、手紙、面会時に伝えている。2ヶ月に1回発行のあさがお便りを楽しみにされ、毎回綴じて保存する家族もいる。事業所の方針変更等は随時報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族等からの不満、苦情は出ない。外部の苦情等受付窓口として地域包括を伝えている。家族会はなく、行事のとき家族同士で話し合う機会を作っている。運営推進会議で出席家族からの意見を吸い上げるようにしている。</p>		<p>・事業所側は言いにくい苦情があるのではないかと気にしている。家族会を立ち上げたり、運営推進会議をさらに活用して苦情等の出しやすい環境づくりが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・他のユニットの利用者へにも声かけて個別情報の共有をしている。親しくなった状況の下では異動はダメージではなく、職員の気付きがあったり、職員の異動をプラスと考えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部研修の情報を職員に提供している。内部研修では、介助の方法等をリーダーがその場その場で指導している。</p>		<p>・外部研修も情報提供だけでなく、積極的な参加支援が必要であろう。内部研修についても、OJTだけでなく、研修内容を検討して計画的に行い職員のさらなる育成に取り組まれない。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・法人内のグループホームの管理者の交流はある。知り合いのグループホームと交流し、情報交換をしている。</p>		<p>・管理者だけでなく職員も他グループホームと交流を持ち、相互に質の向上を図ることを望みたい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・管理者が利用開始前に自宅を訪問し、暮らしぶりを把握したり、本人、家族が来訪して一緒にお茶を飲んだり、雰囲気にならないう工夫している。馴染むまでは家族の応援が必要で、入居当初は電話で家族の声を聞いて安心してもらうこともある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・利用者は役に立ちたくてうずうずしている。洗濯、調理等一緒に行い、一人ひとりに得意なことを活かせるよう働きかけている。忙しいときには、利用者から大丈夫かと気遣ってもらったことも多い。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・日常的に利用者の自己選択を重視している。意向が把握できない場合は、入浴時や夜ゆっくりしたときのふとした言葉や表情から汲み取るよう努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者の思いや意向を日常の会話の中で把握して、利用者主体の介護計画を職員の意見を聞き、ケアマネジャーと管理者で作成している。必要場合は医師に相談する。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・申し送り時の記録、ミーティングでの利用者の新しい情報や変化、職員の気付き等を活かして定期的および随時見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・外食・買い物などは3ヶ月に1回程度実施している。「外出機会を増やしてほしい」という家族の希望に対しては、利用者のADL低下などにより実施しにくい状況もある。通院等は家族の協力を得ているが、ホームとしても柔軟に対応している。</p>		<p>・楽しみのための外出支援に関しては、利用者の体調、ADLの状況にもよるが、回数などは利用者の満足度を高める方向で検討してほしい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・内科、歯科、皮膚科の往診があり、適切な医療が受けられている。また、家族の送迎により、昔からのかかりつけ医に受診している利用者もいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・家族と管理者は一緒に、医師から、利用者の病状や終末期について話を聞き、その都度家族の意向も確認している。法人としては「看取り介護に関する指針」があり、職員全員が共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・利用者の誇りを傷つけないような言葉かけや介護方法について、職員同士で注意し合っている。個人情報に関しては、特に職場以外の気楽な場面においても、もらすことがないように注意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・利用者からの自発的な意向は少ないが、体調や希望により1日の予定を決めている。買い物など外出の回数を増やしたい気持ちはあるが、利用者のADL低下などにより安全に気を使い実現しにくい状態である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・メニューと食材は法人本部から届いているが、食事を楽しむため、利用者と一緒に調理している。やってみたいという気持ちを引き出すような声かけをしている。利用者からの希望のメニューは本部に連絡し実現させている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴時間の選択は、その日の体調や希望に合わせている。入浴を楽しむため季節感のある入浴剤を使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の日々の暮らしが張り合いのあるものになるように、一人ひとりの楽しみごとや引き受けたい役割などを見つけれられるようにしている。		・生活の中の手伝いや軽作業だけでなく、有する能力が発揮できるような機会をつくり、職員と利用者が一緒になって喜びを感じられるような支援を検討してほしい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物外出は3ヶ月に1回程度である。散歩などの日常的な外出は事前に予定日を決め行っている。外出できない利用者は庭での外気浴をし風や光を感じられるようにしている。		・利用者の希望に合わせて買い物外出などの機会を増やすために、ボランティアの協力を要請する方向も検討してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・1階は地域交流スペースになっているが、利用がないときは全く無人となり、やむを得ず用心のために玄関は施錠している。各フロアの階段のところには、安全確保のため鈴をつけた畳を横に並べ引き戸代わりにしているが、見通しには邪魔にならず、閉塞感とはなっていない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回消防訓練と避難訓練を実施している。エレベーターや非常用の用品も随時点検し、いざというときに機敏に動けるように心がけている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事摂取量を毎日チェックし、食事のバランスに留意している。水分摂取の少ない利用者には、好みの飲み物を勧め、脱水状態にならないよう注意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室はすべて南側にあるが、共用空間が北側でやや暗い。そのため、壁には利用者との共同作品を飾り、テーブルに前庭の花を活けて、季節感や明るい雰囲気づくりがされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・建物は保養所だったため、各室の造りや広さが異なっているが、窓から海が見え景色は広々としてゆったりとした気分で過ごせている。使い慣れた家具や仏壇を持ってきている利用者もあり、居宅での生活が継続できるように配慮されている。</p>		<p>・建物の構造上段差がある。転倒予防のため、居室の入り口に十分な長さの手すりを設置したり、段差解消などの工夫が必要である。</p>

 は、重点項目。